

先日、本学OBの先生方のお誘いで、新潟県内の津南町を探検してきました。信濃川沿いに形成された河岸段丘の様子を、あちらこちらと車で移動しながら観察し、その成り立ちの説明をしていただきました。階段状に形成された段丘は10面もあるそうで、ほかでは見ることのできない特異な地形です。途中で立ち寄った「農と縄文の体験実習館なじよもん」では、津南町で発掘された火焰型土器にも触らせていただきました。教科書などに掲載されている国宝の火焰型土器の写真は、十日町市の笹山遺跡から出土したのですが、火焰型土器は津南町でも出土しているそうです。

いろいろと見て回りながら、縄文中期の時代に、このあたりに土器を作る職人集団がいたのかなと思ったり、100平方キロメートルに100人程度の人口密度だったという資料から考えると、ほかの集落との交流もあまりできなかったのではないかと考えたり、しかし、火焰型土器はおしゃれで当時の人々はなんとか手に入れたいと思ったのだろうかかと空想したりしました。また、この辺りは豪雪地帯だけれども、雪の降る季節はどういう生活になっていたのだろうかとも考えました。

ご案内くださった方のおひとは、この地の小学校に勤務されていた方で、ほんとうに丁寧に案内していただきました。

津南町は、もう何年も前に、ある小学校の研究協力者として通いましたが、当時道德教育にのめりこんでいた私は、近くにこんな地形があるとも知らずに、道德教育のことばかり考えていました。興味関心のネットを日頃から広げていないと見逃すものがたくさんあるということに気づきました。

今回の訪問で、この地を巡りながら、地形の話題だけでなく、学校教員としてのエピソードなどもお聞きしました。卒業生・修了生のみなさんは、学校の教員として地域社会に深く入り込み、その地域にほれ込み、その地の子どもたちのために、力一杯に頑張っているのだということを強く感じさせられました。

さて、本学では、同窓会とも協力しながら、毎年、学校現場でご活躍されている本学卒業生・修了生個人を対象にして、研究助成を行っています。1件当たり10万円です。今回の締め切りは、令和6年2月2日（金）17時必着です。研究助成なので、使い道にある程度の制限はありますが、教育実践の研究の発展に役立てていただければ幸いです。詳しい情報は同窓会ホームページ上にリンクが貼ってありますのでご覧ください。

卒業生・修了生の皆さんのますますのご活躍を祈念申し上げます。

2023年12月1日